

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：栄・代官自治会

開催場所：栄町公会堂

開催日時：平成28年12月7日（水）19時00分～20時27分

参加者：自治会側【地域住民の方29人】

市側【染谷市長、牛尾理事、眞部危機管理部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、浅田金谷南北地域総合課長、駒形戦略推進課係長】

内 容

① 河村自治会長あいさつ

- ・このような会は今まで行われていなかったと聞いているが、どうもこの自治会の中から発起人になってこのような会が始まったと聞いている。
- ・市長との意見交換はめったにない機会であるので、要望や意見を出していただければと思う。

② 市長からの市政報告

■はじめに

- ・今までは『市長と語ろう』ということでやってきたが、呼んでいただくところと呼んでいただけないところがあったため、この車座トークは、市内全ての68自治会をまわるということで実施している。
- ・また、今年と来年の2年をかけて次の総合計画（H30～37）の策定作業を行っているが、この他にも、国土利用計画島田市計画や中心市街地活性化基本計画、公共施設再配置計画などの策定もしていく必要があることから、各地域の課題、さらにはどのような取り組みをしているのかを耳で聴き、肌で感じて、それを市政に反映したいということでもわっている。

■最終処分場について

- ・最終処分場はあと5、6年は使えるが、県の許認可の期限が今年度末となっている。これを更新するためには地権者全員の同意が必要。
- ・山田町の震災がれきを受け入れ、その震災がれきの放射線濃度の測定をしたが、放射線濃度は島田市の濃度と同等またはそれ以下であった。
- ・地権者の了解なしに受け入れてしまったことで、数名の地権者の方の行政に対する長年の不信感から良い返事をいただけなかった。
- ・新たな最終処分場について、おとし調査を行い、候補地とした6箇所は様々な課題があり、難しいこともあって適地はなかった。
- ・このため、新しい最終処分場は継続して適地を探していくが、当面の間、田代環境プラザの熔融後の処理灰については、県外又は市外の業者に処理をお願いすることとした。これは、市民生活に支障をきたさないことを最優先に考えたことの結果である。自前の処分場を持っているのは近隣自治体（焼津市、

藤枝市、牧之原市、吉田町)では島田市だけ。外に出したほうが処分費は安い。

- ・市は裁判で前面敗訴という結果となり、控訴せずに和解させていただくことで誠心誠意お話を継続させていただいてきたが御理解をいただけなかった。

■すぐやる課について

- ・平成29年度から、土木管理課の名称を「すぐやる課」に改めることにした。年間の市民等からの要望に対する処理件数は、約2,000件あるが、職員数も経費もほとんど変わりなく行っている。市民の皆さんのイメージとして、課から係になったことで、人数や経費を縮小しているのではないかとこのところがあるようだがそんなことはない。
- ・市民や自治会からの修繕等の要望にスピード感をもって、柔軟に対応することを、よりわかりやすく市民にお示しすることを目的として、市民に馴染みのある「すぐやる課」に名称を改めるもの。
- ・「すぐやる課」では、多様化する修繕等の内容に対応するため、取組に市民協働の理念を組み入れ、体制の強化を図ろうとするものであり、具体的には、地元要望について、「市が対応すべきもの」、「地元と市が協働して取り組むもの」、「地元が市から原材料支給を受けて対応するもの」などに区分して、協働のまちづくりを進めていく最前線の部署としての位置づけをした。

■栄・代官自治会の人口、世帯について

- ・栄・代官自治会の11月30日現在の世帯数は574世帯、人口は1,520人で、高齢者人口(65歳以上)は472人、高齢化率は31.1%となっている。市の平均が29.5%。平均とほぼ同じ。15歳以下の人口は199人で人口に占める割合は13.1%となっている。市の平均は13.7%なので、子どもの数もほぼ平均に近い。人口構成は市の平均とほぼ同じである。地元の力を発揮できる場所であると考えている。

■これからの行政のあり方、地域の抱える課題への取り組みについて

- ・地域の中にどのような人がいるかによって地域力が違ってくる時代になっている。地域によって差が出てくる時代である。
- ・島田に限らず、日本中で今、一番課題となっていることは人口減少。
- ・2025年(団塊の世代が全て後期高齢者となる年)を目途に、医療制度改革として施設から在宅へという流れを考えている。国は医療費が毎年1兆円も伸びている状況において、高齢者にも今よりも負担する率を上げて行くということも検討されている。
- ・何も対策をしないでいると2040年には島田市の人口は8万人程度になってしまうという国の推計が出ている。
- ・そうすると、2010年と2020年の比較で、8億5千万円程度減るという試算がある。
- ・島田市と金谷町が合併したことによる交付税措置の加算額が12億円であったものが、平成27年度には10億円、今年度は7億円に減っており、平成32年度にはゼロになる。

- ・ 税収も減っていった、高齢者が増え、福祉、医療、介護の経費は増えていくが、子育て施策、教育にも力を入れなければならない。
- ・ 賢く使う、選択と集中をして、次世代に多くの借金を残す市政運営はしたくないと考えている。
- ・ 国は1,063兆円の借金があり、国民一人当たりの借金は837万円となっている。島田市も借金は約500億円あり、市民一人当たりでは約50万円となる。
- ・ この金額が100万円、200万円になってはいけない。若い人も島田に住んでやりたいこと（自分たちの政策を形にすること）があると思う。自分たちの時代のことは自分たちで何とかしようという考え方を持たないと、持続可能な都市経営はできない。これは一般論として御理解いただけると思う。
- ・ 新病院の建設事業費は今のところ247億円となっているが、皆様の安全・安心のよりどころとなる病院にしていかなければならない。
- ・ 平成32年度末には開院できるように準備を進めているところである。
- ・ かつては、土地の値段が上がり、給料も上がり、全てが右肩上がりだった。こういう時代だと、人生設計（老後についても）ができた時代であった。
- ・ 明日は今日より良くなるといった高度成長期と違って、いつリストラになるかもしれない、給料も上がるかわからない、土地が値上がりする目途がないことに加え、優良企業であっても業績が不振となったり、非正規雇用の若者が増え、さらに結婚したくてもできない、子どもを産みたくても産めないといった人が増える日本の社会は、我々が若い頃の夢を描いていた時代と違う時代になってきている。
- ・ 子育て施策をはじめ、医療、介護、教育などの施策により、市民の皆様が安心して住み続けられるようにすることが行政の基本ベースにあると考えている。
- ・ 金谷地域は地域を愛する地域愛がある。都会は地域への帰属意識に対して希薄である。

■今後の公共施設のあり方について

- ・ 公共施設は276施設663棟の建物がある。この施設に係る修繕費の費用はこれからの40年間で2,515億円かかる。年間63億円にもなる。今は維持管理・更新に年間36億円かけているので、その1.75倍となる。投資できる金額との整合性を図るためには、今後40年間に公共施設の約21%を削減しなければならないというデータが出ている。
- ・ 投資だからという理由で、補助金がもらえるなら、合併特例債が適用される期間に施設等を造ったほうがいいという考え方で進めてきたが、施設等の維持管理には、造った時よりも3～4倍の経費がかかる。高度成長期からのツケが今の国や地方自治体の借金につながっているのではないか。
- ・ 橋も道路も5年に一度点検しなければならない法律ができて維持修繕にお金がかかる時代になっている。
- ・ こうしたことから、施設に付加価値の機能を高めていきたいと考えている。（総量は減らしつつ、残した施設に付加価値をつけていく。）
- ・ 市民会館は現在、解体は終了して更地になっている。今年度中には舗装をしていきたい。帯桜があるところは、少し広めの帯桜パークのようなものをつくって市民の憩いの場やイベントの場として活用してもらえようと考えている。当面の間は、駐車場、賑わい広場、中心市街地の防災の避難地として使っていく予定。
- ・ これに対して、同じものをつくるとなると、70～80億円、100億円という事業費になることから、病院建設をまず優先して行うことを選択した。病院に

目途が立った段階で、市民会館と市役所（築 53 年）、おおり（築 34 年）に関しては、建設検討委員会を立ち上げていく予定。（病院の設計に目途がたった段階で立ち上げていく。）市民病院の詳細設計は、今年度内にお示しできると思っている。

- ・ちなみに、鉄筋コンクリートの耐用年数は一般的に 50 年といわれており、日本建築士学会では 60 年ということが言われている。
- ・市内に 25 ある小中学校のほとんどが昭和 40 年～50 年代に建設されたため、老朽化も同じ時期となる。教育環境の充実といった点でもある程度の規模が必要であると感じている。

■地域の抱える課題等について

- ・御高齢の方への見守りは行政でも行っているが、全てには目が行き届かない。地域の見守りの目がないと、いくら保健師が回ってもなかなか難しいと感じている。
- ・一人暮らしで不安がある高齢者の方たち約 500 人に登録をいただいているが、毎週電話をして、元気であるか、困っていることはないかなど、安否確認を市の職員がしている。連絡が通じなかったり、SOSがあった場合には、必ず市の職員か民生委員が 30 分以内に駆けつけられる体制をとって見守りをしている。
- ・地域の助け合いの事例として、ある地域では、500 円の券などを活用して、地域の人達で助け合う生活支援のサービスを行っていく計画がある。元気な高齢者はサービスを提供し、たとえ 500 円でも収入になる。（道悦島の事例）
- ・蛍光灯の取替えや重いものを持ってないなど、生活で困っている方を地域で助け合うサービスの取り組み。
- ・高齢者が、公民館で放課後児童クラブを行っているところもある。隣接地域の小学校の放課後児童クラブに児童を送迎することを地域住民が行っている事例もある。（湯日の事例）
- ・コミバスが地域に走っていない地域においては、市がワゴン車と保険とガソリンを負担して、地域の足を確保するために、地域がボランティアなどの運転手をお願いしていくことも計画している地域もある。このように、地域の課題を自分たちで解決していくことを行政として最大限支援していく。
- ・災害時に資格を持った人たちがその資格を活かして、地域で活動するような取り組みをはじめた地域もある。

■賑わい交流拠点の整備について

- ・NEXCO 中日本、大井川鐵道、JA 大井川、島田市の 4 者が連携し、新東名高速道路島田金谷 IC 周辺に、地域の特産品を集めた販売所や、カフェやレストランなどが入る施設を建設する予定。売り場面積が今のところ日本一となるマルシェとなる見込み。大鐵は新駅建設も検討している。
また、市は、新東名の下に、国の占用許可をとって、約 1,000 台弱の駐車場を造る予定となっている。（今後、新東名のバス路線を見据えた計画でもある。）
- ・国一バイパスの 4 車線化に伴い、大代インターチェンジの改良も必要になると JA 大井川五和支店の移転も必要になるのではないかとと思われるので、JA の支店を交流拠点の中に組み込むことも考えている。

- ・奥大井につながる観光の拠点であり、大井川流域の農産品をここに集めて売る。
- ・最短で平成 30 年 5～6 月に着工できる計画で頑張っている。
- ・首都圏からの観光バスの往復 500 km の位置として、交流拠点の位置あたりになるので、バスを降りてつながる観光の拠点とすることに加えて、空港周辺のこの地域にも交流人口の増加につながる動線を考えていきたい。
- ・交通網の拠点となる場所がインターチェンジ周辺だと考えている。
- ・このような拠点となる施設を造ることによって新たな機能を付加することができる。ここには「にぎわい」という機能を付加していきたい。

■新東名島田金谷インターチェンジ周辺の開発について

- ・新東名の北東エリアの 84ha を内陸フロンティア地域として開発することを考えている。
- ・協議会の皆様にゾーニングの計画を立てていただいている。農振除外ができるかということと、大井川土地改良区の受益地になっていることへの対応という課題に最大限の力を注いでいる。
- ・牛尾山と堤間のあたりから先行的に開発を進められればと考えている。(基盤整備も市としては先行して着手していきたい。)
- ・何とか今年度中に目途をつけて、にぎわい交流拠点とともに、企業誘致を進めていきたい。(アンケート調査などの結果では 20 社ほどの引き合いもある。)

■お茶の郷について

- ・お茶の郷は今年の 6 月 1 日に県に移管した。島田市が所有するよりも県営のお茶の博物館になるほうが、発信力、財源の確保の点について効果的である。花の都は浜松、お茶の都は是非、島田市へという要望をして実現した結果である。
- ・県の話では、再来年の春(仮称)ふじのくに茶の都ミュージアムとしてリニューアルオープンとなる予定。県が所有し、全国的にも例を見ないお茶の専門の博物館ということなので市も連携を図っていきたい。
- ・県が持つことによって情報発信などにおいて効果的であることがあげられる。お茶の葉能などお茶の機能性という分野を追加することも考えられる。
- ・金中跡地から牧之原公園に向う変則の交差点は真っ直ぐになるよう改良し、同時に歩道を整備した。

■牧之原公園の整備について

- ・工事期間は 11 月 1 日から 2 月 28 日までとなっている。(公園内に工事の看板が掲示されている。)
- ・懸案のトイレについては、解体して展望台の部分を含めて今のトイレの方まで延ばしてトイレは道路側に新設する。フェンス、椅子の取替えも行う。
- ・このように公園全体を一体整備することは減多にない。これは、牧之原公園が夜景 100 選ということに加え、お茶の郷(6 月から県へ移管)、旧金中跡地と一体となった整備に相応しい公園としていくための投資である。

■金中跡地の開発についてなど

- ・かつては、コンベンションホール、ツインメッセなどの構想から8年の歳月が流れた。交流人口を増やす目的で国費（補助金）をもらって整備をしてきている場所であるため、その趣旨にあうものにしていく必要がある。
- ・昨年アイデアコンペを実施し、今年是有識者会議を開催し、11月末には旧金中跡地に係る基本計画がお示しできるのではないかと考えている。
- ・今、マーケットサウンディング（ゼネコン、土地の開発業者、金融機関などに声を掛けて現地をみてもらい、どのような開発に適しているかを、その周辺のティーガーデンシティ構想（風の郷）として指定されている地域ということも勘案して提案すること。）を行った。
- ・我々はロケーションやお茶の郷との連携も考えると素晴らしい場所だと考えているが、マーケットサウンディングでは、商業施設などは難しいという意見をいただいている。こうした中、8年前の計画（約束＝底地は市が用意してウワ物は県が建てる）が果たせないため今に至っている。県はその約束が果たすことができないことから、民間活力をもって交流人口を呼び込むような施設を造っていきたいと考えている。そこに行政的機能を付加したいと考えている。何もしないでそのままにしておくわけにはいけない。

■金谷庁舎について

- ・金谷庁舎は、合併する時には耐震補強して使うということで聞いているが、前の市長の時にそれはしないということで、支所を2箇所整備した。
- ・金谷庁舎のエアコンが昨年壊れ、修理費に6,000万円もかかるということだったが、耐震性のない建物に、それだけの投資はできないということで修理はしていない。
- ・金谷庁舎については、現在、おおりに入っている社会福祉協議会が市民会館の向かい側に移転した。（11月7日）。社会福祉協議会が出たスペースに教育委員会を移転する計画である。（年明け）耐震性のない庁舎での業務には課題もあること、しかもあの施設を耐震化することは莫大な費用がかかる。さらに配管等の設備の老朽化が進んでいる。
- ・こうした中で、一度おおりに教育委員会を移していく。金谷庁舎の機能（整備）については内部で検討しているが、一つ皆様に御相談したいことは、南支所、北支所を今の金谷庁舎の跡地に一本化させていただきたいということ。旧金谷町と旧五和村が合併した融合の地に金谷庁舎があるという点に加え、行政効率も考慮するとあの地に支所を設けていきたい。金谷庁舎の跡地には民間活力を導入して複合施設等を検討したい。議会には、健康・福祉の機能という説明をしているが、市民の皆様の声も聞きながら検討を重ねていきたい。（様々な方法を考えていかなければならない。）

■その他の金谷地域への取り組みについて

- ・国道1号バイパスの4車線化、菊川インターのフルインター化などは早期に完成できるよう、継続して予算の確保も含めて国に要望をしている。
- ・御前崎港⇒菊川IC⇒大代IC⇒新東名という大災害時における「命の道」がつながるということで国への要望を積極的に行っている。
- ・国道1号バイパスの4車線化に伴い、大代ICのランプも大きくすることによってJAの移転も必要となったことにより賑わい交流拠点の構想にも

つながってきている。

- ・国道 473 号の 4 車線化（大代 I C から新東名まで）について、最初に実施したい箇所として、主要地方道焼津森線と市道島竹下線の交差点の改良を実施していきたい。
- ・以上のように今後、金谷地域はいろいろな投資が行われてくる地域である。企業進出に必要とされる雇用の確保も可能な地域が金谷地域である。
- ・さらには、現在、西原地区の茶園の集約に取り組んでいる。若者が取り組んでくれているが、彼らが成功する営農というものに行政は支援していかなければならない。金谷の若い人たちは勢いがある。法人経営などの農業を育てていかないとならないと感じている。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■金谷庁舎について</p> <p>金谷庁舎を耐震補強して使えないかということをして市に提案をしたことがある。今の南北支所は枯れている。南支所は駐車場が狭く、車で行けない。不便である。今の金谷庁舎をうまく活用する方法がないか。</p>	<p>●耐震補強は、5 億円、7 億円かかるという話もある中で、建物内部の配管の傷みも激しく、耐震補強しても、その後どの程度もつのかという懸念もある。こうしたことから壊してコンパクトなものをつくるのが良いという考え方を持っている。</p>
2	<p>■旧金中跡地について</p> <p>県が積極的に動いているか半信半疑である。</p> <p>お茶の都構想が出され、あの付近一体を整備していくものであったと思っているが、まだ実現されていない。</p>	<p>●お茶の都構想は、あの周辺についてはティーガーデンシティ構想（風の郷）として指定されている地域ということで、賑わいの交流拠点、交流人口の増加を図ることとしている。有識者会議の座長は熊倉功夫先生である。県の本気度は、旧金中跡地に専属の職員を配置している。市も専属の職員を県に派遣している。調査費等は県の負担でやっている。</p>
3	<p>■新東名島田金谷インターチェンジ周辺の開発について</p> <p>目に見えているのはバイパスの 4 車線化である。事業が動いていないと心配になる。牧の原公園の整備も早くやってほしい。</p>	<p>●種をまいても芽が出ないとならないと感じている。基盤整備に着手しないと目には見えてこないかもしれない。</p>
4	<p>■牛尾山の開削工事について</p> <p>跡地利用について考えていかなければならないと考える。</p>	<p>●開削は 29 年度に終了する。通常時の川幅は変わらないが、大雨が降ったときなどには、開削した部分までが川幅になることによって、洪水の危険性が極めて少なくなる。川の流れが変わる可能性があるため、対岸の神座地先にも護岸工事を実施している。国への要望については、ただ単に造ってくださいと要望してもその要望は通らない。その道路を造ることによ</p>

		て、雇用の創出や渋滞の解消、企業の進出数など数値で効果を表さないと ならない。(ストック効果を示していく必要がある。)開削工事のストック 効果として、内陸フロンティア、賑わい交流拠点をあげている。牛尾山の 平地については見栄えのいい場所なので、工場、店舗の高いと考えている。
5	<p>■敬老会について</p> <p>何年も体操や童謡を歌ったりして余興をやってきたが、高齢に伴い、 今年はやめた。こういったことは年齢ではないと思っている。敬老会で は喜ばれていたなので、またやりたいと思っている。そういう取り組みに ついては役所に届出しなければならないか。</p>	<p>●敬老会については、行政は対象者の名簿と運営費をお出ししているが、 余興等は地域でお願いしている。</p>
6-1	<p>■南北支所の統合について</p> <p>よく言ってくれたと感じている。統合は、金谷庁舎の解体と連動する 話なのか。</p>	<p>●今の金谷庁舎の場所が、旧金谷町と旧五和村の統合の象徴の地だと思っ ている。あそこに何とかおきたいと考えている。他の自治会でこの話をし たところ、「みんくる」でもいいじゃないかとも言われたが、あのあたりに 施設があることが理想なのだと思う。支所については、皆さんの御意見を 伺って使い勝手の良い施設にしていきたい。</p>
6-2	<p>■後世に多額の借金を残すことがないように考えないといけない。</p>	<p>●北の方は放課後児童クラブがあふれている状況である。子どものための 施設としても必要なのではないかと考えている。皆さんの御意見を伺っ ていきたい。南北支所の統合には反対ではないというご意見として承ってよ いか。</p>
6-3	<p>■そのとおりである。期待をしている。北と南で別れてしまっている気 がする。</p>	<p>●金谷は一つだと思っている。金谷は一つだという力を発揮していかなけ ればならない。</p>
7-1	<p>■国道 473 号について</p> <p>道路状況(幅員など)が悪いので、観光バスは島田側から奥大井に入 っている。道がよければ金谷側にはインターチェンジがあるので観光ル ートになる。現在は沿線が閑散としている状況である。インターチェン ジから川根まで 15 分程度で行ける整備をお願いしたい。</p>	<p>●国道 473 号の整備は国土交通省に要望に行く最重要なものの一つ。国も 県も道路などを造る予算は 15 年位前に比べ約 3 分の 1 程度しか確保でき なくなってきた。国の道路予算が絞られている中、国直轄の高規格道 路が優先されている。大代以北は地形から工事費がかかる道路であるため 難しいことはあるが要望は継続していく。</p>
7-2	<p>■北部はますます限界集落化して集落自体が消えていってしまうので、 あきらめずをお願いしたい。</p>	<p>●あきらめてはいない、(要望は)続けていくことが重要。国もネットワー クを広げていく時代ではないので、高速道路や基幹道路を最優先で事業化</p>

		<p>している。市で計画している基幹道路も国や県の補助がないと進まない。例えば、東町御請線は、10億円以上をかけて5年間の工期で実施する予定で、最後の1年になって、必死になって国にお願いしてなんとか、計画どおり来年の3月には完成する予定。</p>
8-1	<p>■なごみの里へのバスについて いきいきクラブの事務所が田代にあるが、あそこで会議等を行なう場合、バスが金谷から全然ない。出席したくても出席できない方がいる。不自由をきたしている。</p>	<p>●金谷から伊太なごみの里には行っていない。島田の駅からは出ている。</p>
8-2	<p>■皆さん不自由している。</p>	<p>●週に何回かは、伊太なごみの里に行くバスがあるので、長寿介護課の方にお問い合わせをいただければと思う。</p>
8-3	<p>■初めの頃は、週1回頼めばバスを出してくれたが、今は島田にバスをとられてしまって金谷地域の方が使えない。</p>	<p>●コミバスについては来年にも改編する予定。路線の変更などは陸運局への届出が必要であり、届出から許可までは半年程度かかる。皆様のご要望にお応えできるように改編をしていきたい。</p>
9-1	<p>■大代川の浚渫について 大代川は市の管理か。</p>	<p>●大代川は県の管理である。浚渫の要望を多くいただいているため、島田土木事務所にも市からお願いをしている。</p>
9-2	<p>■土砂をとることが結構ではない。土砂を上流部からとっている。本来は下からとらないと、ダムのようになり危険である。素人でも判断できる。</p>	<p>●わかりました。</p>
10-1	<p>■消火栓について 自治会長が市役所から言われたということで、上水道を使った非常時の消火栓は取っ払ってほしいとのことだった。市に確認したらそんなことはないと言われた。旧島田市内にはそのような消火栓はないと聞いたので、金谷の消火栓は対象でないということなのか。せっかくあるものなので使いたい。自治会で持つということを考えている。上水道なので、素人が使ってはいけないということは承知をしている。消防団か消防署が取り扱うということ为前提として使わせてほしいと考えている。</p>	<p>●消火栓について、放置されている箇所は何箇所かあることは承知しているが、島田と金谷で相違があるところまでは分からないので、また確認してお返事する。【検討事項1】</p>

10-2	<p>■あの管轄は上水道企業団と市役所である。一度、試験的にやったら水が濁ったということらしい。</p>	<p>●宿題にさせていただきます。【検討事項2】</p>
11	<p>■金谷庁舎について 庁舎を壊す話はそのとおりだと思うが、金谷と五和のシンボルであるので、前市長が北と南に支所をつくったことがしっくりいかない。残念だ。壊した後について夢と希望を与えてくれる話があればお聞きしたい。</p>	<p>●金谷庁舎の跡地利用について検討した経緯がある。市民の皆様の公共に資するものにしたいということ。一方で、市民病院の建設に伴い、療養病床を無くすこともあり、例えば民間の療養型の病院を持ってきて、支所機能を入れてということも検討したが、現実的には難しいということだった。他にも、特定医療健診センターができないかということも検討したが、いずれも今の段階で難しいとの判断に至った。今後については、第3の計画については足踏みしている。地元の皆さんのお話を踏まえ、官民の力で公共性の高い施設ができれば、市民の負担を極力減らすことになると考えている。</p>
12-1	<p>■人口減少問題対策について 人口減少問題について、これをこのままにしておくのか。仲人などについて行政もやっているのか。</p>	<p>●2年ほど前から「おせっかい人養成講座」(仲人をやる養成講座)を実施している。島田市認定おせっかい人は20人から30人いる。(昔で言う仲人さんをつくっている。)今は、個人情報の問題、若い人の好みがあって、お世話するのも知っておかなければならないことがある。現在、おせっかい人が活動団体を立ち上げている。お見合い会のようなものを実践したり、親の婚活を実施したりしている。やれることは一生懸命やっている。</p>
12-2	<p>■隅々まで皆さんにわかるように浸透させてほしい。</p>	<p>●承知した。</p>
12-3	<p>■日本も1夫婦が4人くらいの子どもの産むような政策をしないと。</p>	<p>●子どもの産まれる数は1975年から減ってきて、40年間それが積み重なって表面化しているが、簡単に子どもの数は増やせない。高齢化によって人口自体は減っていかなかった。「消滅可能性都市」というレポートが2年前に出て、全国約1,700の自治体のうち896自治体が40年後にはなくなっているかもしれないという内容のもの。このレポートの趣旨は、若い女性がいなく都市はいずれ消滅するというものである。島田は暮らしやすいところで、結婚している夫婦は平均2人以上の子どもの産んでいる。今はますます結婚する人が減って、結婚しない人が増えている。男性の生涯未婚率は20%を超えている。初婚年齢は女性が29歳、男性が30歳となって</p>

		いる。女性が子どもを産める年齢が40歳くらいまでとしたら、なかなか3人、4人と産めない時代になってきている。大学を出て10年間働かないと一人前になれないような状況や、育休、産休がとりにくい社会では、なかなか子育てはできない。なにより、若い人たちが結婚したいという社会にしていくことが必要。日本全体が働き方を考えていかなければならない。これは地方自治体のやれることの限界を超えている。ナショナルミニマムで国の政策で取り組まなければならないのでそこは国に訴えていきたい。
13	<p>■海外で活躍する島田出身者について</p> <p>いしだあやこ。ジブチで2年間農業指導をした。東ティモール1年半農業指導で活躍している。島田出身で海外で活躍している方。</p>	<p>●島田市出身の方で、青年海外協力隊（JICA）で活躍されている方はいる。お目にかかれたらお話をさせていただく。</p>
14	<p>■ふるさと納税について</p> <p>市はふるさと納税を収入源として考えているか。</p>	<p>●島田市でも取り組んでいる。今年度は11月末までで昨年度の3.4倍の寄附をいただいている。今年度は7,000万円を目標にしている。来年度はもっと多く寄附をいただけるようにしたい。寄附をいただいた方への返礼品として島田市の地場産品については200品目を用意している。新商品の開発で炭素繊維のバックもある。島田市内の地場産品の振興にも役立っている。</p>

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子



⑤検討事項に対する対応（報告）

質疑応答番号 検討事項番号	検討内容（市長の発言）	市からの回答（対応状況）
10-1 検討事項 1	<p>●消火栓について、放置されている個所は何箇所かあることは承知しているが、島田と金谷で相違があるところまでは分からないので、また確認してお返事する。【検討事項 1】</p>	<p>■消火栓は火災時の消防水利として整備されている施設であり、設置されている場所により水圧が違ったり、同時に複数の消火栓を使用できないなど特殊であることから、火災時には島田市全域で常備消防（消防署）が使用する水利としています。（以前、ある地区では初期消火で消火栓を使用していたが、消防署と交代する際に連結口を折ってしまい使用不能となった事例や、消火栓を開けた後、消火栓を監視する人が居なくなり落ちて怪我をした事例がありました。）</p> <p>次に消火栓ボックス（ホース格納箱）については、旧金谷時代に初期消火のため、自主防災会育成対策補助金を利用し自主防災会で整備していただいていたものであります。消火栓の使用方法については上記のとおりとなることから、今後は、新規購入又は、更新はせず、老朽化したものについては順次廃棄していただき、街頭用消火器等に切り替えていただくなど引き続き初期消火体制にご協力願いたいと思います。（旧島田地内には消火栓ボックスは設置してありません。）</p>
10-2 検討事項 2	<p>●宿題にさせていただく。【検討事項 2】</p>	<p>■水道管については大井上水道企業団、消火栓については島田市が管理しています。</p> <p>鋼製の古い水道管には錆等が付着していると聞いています。</p> <p>通常の使用量であれば気にならない程度のごく少量の錆等が流れる程度ですが、消火栓を開け一気に大量の水を使うと水道管に付着した錆等がはがれ水が濁ることがあります。</p> <p>大井上水道企業団に確認したところ、緊急時以外に消火栓を使用する際には、大井上水道企業団へ使用申請の提出が企業団条例</p>

		で定められており、開栓の際は企業団職員が立ち会うとされていますので、使用の際はご面倒ではありますがご協力願います。
--	--	---